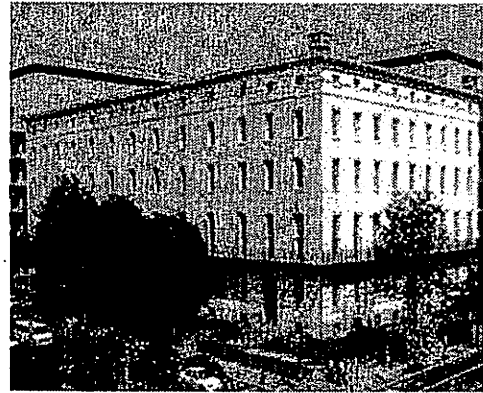


デジタル通信革命の舞台裏

内海善雄 前I-T-U事務総局長

—12—



米国と日本の間には、織り、電気公社は、購入した米がどうしても譲れないもの国際標準維、自動車、電気通信、半くもない機器を米国から購入のとして、通信機器の「フ」に從うのが導体などのたくさんさんの経済入すために、仕様書を英「ロトコル」があった。I-T-U世界の常識摩擦があった。近年、わが国の経済力が低下して、これらの経済摩擦も過去の出来事になったように見える。しかし、ごく最近起きたトヨタ車の欠陥ブレーキ問題は、明らかにこれら経済摩擦と同質の事柄である。



やられ使用もしない米国製の電話機

売でできるよう承知をしない。全て自由にする。しかし、あるコーヒー・

プロトコルが問題!! 完全自由化 一斉合奏

約束ごと(技術標準)をき、波の割り当ても強要され地域によって、異なる規格の携帯電話サービスが開始された。

これら米国

正しい事も通用せず

毎年、約束実行の点検

「米国から購入できるものは雑巾バケツくらいしかない」と電気公社の秋草総裁が発言して物議をかもし出したのが、1979年ごろから問題になった電気公社の電気通信機器の調達であった。

自由化の際には、私は数年間米国政府と直接交渉をした。多くの案件の中に、日

ベきたと主張して、電気通信自由化法案の実施が延期された。

ワシントンでは、国務省、商務省、FCCなどの関係省庁の代表十数人と一堂に会して交渉した。「プロトコルが問題だ、完全に自由化する」との一斉合奏

のことの意味する。したがって直接、間接に交渉に携わった私は、まったく道理に合わない要求を受け入れなければならないことに、

「日本は主権国家か?」と歯軋りをする思いでいっぱいであった。

しかし、いま振り返って見ると、それらは国際社会

1984年の電気通信の自由化の際には、私は数年間米国政府と直接交渉をした。多くの案件の中に、日

ワシントンでは、国務省、商務省、FCCなどの関係省庁の代表十数人と一堂に会して交渉した。「プロトコルが問題だ、完全に自由化する」との一斉合奏

のことの意味する。したがって直接、間接に交渉に携わった私は、まったく道理に合わない要求を受け入れなければならないことに、

「日本は主権国家か?」と歯軋りをする思いでいっぱいであった。

しかし、いま振り返って見ると、それらは国際社会

では当然のことであったのだとわが身の未熟さを感じる。当時、人口が世界の50分の1しかない日本が、世界のGDPの3分の1近くも占めていたのであるから異常である。外貨が日本に集中して、米国のパランスが極端に崩れていた。

日本の独り勝ちが、世界経済を壊し、結局は日本にも被害をもたらしたのである。後、前川レポートによる内閣拡大策、プラザ合意による為替調整、金融機関のBIS規制など二連の国際合意の中で、この歪な状況は調整されたのだ。

強い米国の圧力によ

た。多くの案件の中に、日

ワシントンにある日米交渉の相手USITRの本

部

特別専用機で先回りして日本へ来た米国通商代表部

曾根総理と直接交渉をし、総理は米国の要求を全てこの政治決着をした。

また、携帯電話事業の開始に当たっては、すでに時代遅れのモトローラ製のアナログ電話機のために、電

た。